

2019年度 所員の研究・社会的活動報告

Research Reports 2019

(2019年4月1日～2020年3月31日)

氏名・専門領域	赤畑 淳 ●精神保健福祉論, ソーシャルワーク実践論
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 赤畑淳 (2019)「精神科入院における聴覚障害者の権利保障～実践報告集にみる実態から考える～」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第7号, pp.57-70. 立教大学. 2) 赤畑淳 (2019)「短評: 大谷京子, 田中和彦著『失敗ポイントから学ぶPSWのソーシャルワークアセスメントスキル』」『ソーシャルワーク研究』45(1), p.98. 3) 令和元年度障害者総合福祉推進事業〔厚生労働省〕(2020)「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築及び地域共生社会の実現に向けた精神保健福祉士の資質向上の在り方等に関する調査報告書」(第3部 精神保健福祉士資格取得後の継続教育や人材育成の在り方等に係る質的調査の結果及び考察「2. 精神保健福祉士養成課程の教員で卒後教育に取り組んでいる者を対象としたヒアリング調査」分担当).
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 坂入竜治, 岩本操, 赤畑淳, 浅沼充志, 岡本亮子, 栗原活雄, 鈴木あおい, 古市尚志, 渡辺由美子, 古屋龍太 (2019)「『精神保健福祉士業務指針』を活用した日常業務の再構築 その1～日常業務点検ワークの開発と意義～」第18回日本精神保健福祉士学会学術集会, 愛知, 8月. 2) 浅沼充志, 岩本操, 赤畑淳, 岡本亮子, 栗原活雄, 坂入竜治, 鈴木あおい, 古市尚志, 渡辺由美子, 古屋龍太 (2019)「『精神保健福祉士業務指針』を活用した日常業務の再構築その2～教材「業務指針を活用した日常業務点検ワーク」の試行結果を踏まえて～」第18回日本精神保健福祉士学会学術集会, 愛知, 8月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会:「精神保健福祉士業務指針」委員会副委員長 2) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会: 精神保健福祉士養成教育検討委員会委員 3) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会:学会誌投稿論文等査読小委員会査読担当者 4) 一般社団法人ソーシャルワーク教育学校連盟:国家試験合格支援委員会委員 5) 特定非営利活動法人あんずの家(就労継続支援事業B型) 副理事長 6) 令和元年度障害者総合福祉推進事業〔厚生労働省〕「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築及び地域共生社会の実現に向けた精神保健福祉士の資質向上の在り方等に関する調査」事業担当者

氏名・専門領域	跡部 千慧 ●労働と家族の社会学, ジェンダー研究
著書	跡部千慧 (2020)『戦後女性教員史——日教組婦人部の労働権確立運動と産休・育休の制度化過程』六花出版.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 木村育恵, 跡部千慧, 河野銀子, 田口久美子, 池上徹, 高野良子, 村上郷子, 井上いずみ (2019)「教員育成スタンダード化政策の課題——女性教員のキャリア形成に着目して」『北海道教育大学紀要, 教育科学編』第70巻1号, pp.53-62.

論文	2) Atobe, C. (2019) "Does Japanese Women's Labor Force Development Cause Gender Inequality?: Focusing on Maternity Leave Substitute Jobs in 1940's-70's", <i>Comparative Sociology</i> , vol.18, no.3, pp.327-341.
学会発表	1) 木村育恵, 河野銀子, 田口久美子, 池上徹, 跡部千慧, 高野良子, 村上郷子, 井上いずみ (2019) 「教員育成スタンダード化政策の課題——女性教員は管理職を目指すのか」国際ジェンダー学会2019年大会個人発表, 東京, 9月. 2) Atobe, C. (2019) "An historical analysis of the highly-educated women's labor force in Japan: focus on elementary school teachers between the 1960s and 2000s." the 16th East Asian Social Policy research network annual conference, Taipei, 7月.
学内・学外における社会的活動等	1) 跡部千慧 (2020) 研修「女性活躍推進研修ツール体験会」令和元年度第2回しずおかレインボーネットワーク研修会(講師), 静岡, 2月 2) 跡部千慧 (2019) 講座「朗読サロン『上野千鶴子のサバイバル語録』」静岡県男女共同参画センター(講師), 静岡, 7月 3) 跡部千慧 (2019) 研修「残業ゼロの働き方」令和元年度第1回しずおかレインボーネットワーク研修会(講師), 静岡, 6月 4) 跡部千慧 (2019) 講座「『わたしママだから』無理してない?」令和元年度はままつ女性スクール(講師), 浜松, 5月 5) 公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会静岡ワークライフ研究所 客員研究員 6) 静岡県菊川市男女共同参画懇話会 アドバイザー 7) 文部科学省 次世代のライフプランニング教育推進事業「人生を切り拓くライフプランニング教育」実行委員

氏名・専門領域	飯村 史恵 ●権利擁護論, 福祉マネジメント論
論文	1) 飯村史恵 (2019) 「社会福祉協議会における情報化の課題」『福祉情報研究』第15号, pp.57-69 日本福祉介護情報学会. 2) 飯村史恵 (2019) 「成年後見制度から意思決定支援へ: 自律か保護かの対立を超えて」『コミュニティ福祉研究所紀要』第7号, pp.1-18 立教大学.
資料・研究ノート等	飯村史恵 (2019) 『意思決定支援を基盤とする福祉契約の研究～地域における新たな権利擁護システムの構築 報告書』科研費研究(基盤C) 16K04202
学内・学外における社会的活動等	1) 練馬区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定評価・推進委員, 権利擁護センター運営委員会副委員長, 法人後見のあり方検討委員会委員 2) 武蔵野市成年後見制度利用促進基本計画策定委員会委員長 3) 埼玉県社会福祉法人認可等及び介護老人保健施設審査委員会委員 4) 新宿区社会福祉協議会第三者委員, 情報公開・個人情報保護審査会委員 5) 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画権利擁護部会会長 6) 志木市成年後見制度利用促進審議会副会長 7) 立川市社会福祉協議会地域あんしんセンターたちかわ運営委員 8) 救護施設あかつきオンブズマン 9) 社会福祉法人共働学舎オンブズマン, 評議員選任・解任委員会委員 10) 日本福祉介護情報学会理事 11) 特定非営利活動法人自律支援センターさぼーと理事 12) 特定非営利活動法人福祉の資料と情報代表理事 13) 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会評議員 14) 科研費研究(基盤C)「関係性の観点から捉え直す『権利擁護』研究—成年後見制度を超えて」研究代表者 19K02251

氏名・専門領域	石渡 貴之 ●環境生理学, 脳神経科学, 発育発達
論文	Hikaru Nakagawa, Daisuke Matsunaga, Takayuki Ishiwata, Effect of heat acclimation on anxiety-like behavior of rats in an open field, Journal of Thermal Biology, 87, 102458, 2020
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Yuga Sakuma, Daisuke Matsunaga, Hikaru Nakagawa, Takayuki Ishiwata, Effect of intermittent fasting on brain monoaminergic neurotransmitters and anxiety-like behavior in rats. 39th ANS2019, 2019年12月, Adelaide, Australia. 2) Hikaru Nakagawa, Daisuke Matsunaga, Takayuki Ishiwata, Changes in brain monoamine levels in the preoptic area and physiological indices in a heat acclimated rat during heat exposure. 14th ICPA2019, 2019年9月, Singapore. 3) 中川晃, 松長大祐, 石渡貴之, 暑熱曝露に伴うラットの摂食及び不安様行動の変化について, 第27回日本運動生理学会大会, 広島, 2019年8月. 4) 松長大祐, 中川晃, 石渡貴之, 自発運動と強制運動の違いが生理指標及び情動行動へ及ぼす影響, 第27回日本運動生理学会大会, 広島, 2019年8月. 5) Hikaru Nakagawa, Daisuke Matsunaga, Takayuki Ishiwata, Effect of heat acclimation on brain monoamines and emotional behavior in rats. FENS Regional Meeting 2019, 2019年7月, Belgrade, Serbia. 6) Daisuke Matsunaga, Miho Sato, Fumiharu Togo, Takayuki Ishiwata, Effect of short duration of sleep deprivation on brain monoaminergic neurotransmitters, physical indices and behavior in rats. FENS Regional Meeting 2019, 2019年7月, Belgrade, Serbia.
学内・学外における社会的活動等	<p>【社会的活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会 評議員 2) 日本生理学会 評議員 <p>【研究活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文部科学省科学研究費 基盤研究C 研究代表者「自発運動が社会的隔離ストレス下の生理指標, 脳内神経伝達物質, 情動行動に及ぼす影響」(2017-2019) 2) 文部科学省科学研究費 基盤研究B 分担研究者(研究代表者: 広島大学大学院 長谷川博)「暑熱環境下における運動能力低下に関する中枢性作用機序の解明と熱中症予防対策」(2017-2019) 3) 文部科学省科学研究費 基盤研究B 分担研究者(研究代表者: 東京大学大学院 東郷史治)「交代制勤務による内的脱同調と心身の変調の因果性及びその神経行動学的基盤の解明」(2018-2020) <p>【講演会講師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 三芳町福祉大学, アンチエイジングと福祉～元気で生き生きとした長生きを目指して～, 2019年11月7日 2) 新座市民総合大学, 脳のメンテナンス～睡眠・運動・こころの関係～, 2019年7月6日

氏名・専門領域	大石 和男 ●健康心理学, スポーツ心理学
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 木村駿介, 岸笙子, 小松陽香, 大石和男 (2019) 「タッチラグビー選手の競技力向上を目指した心理サポートの基礎的研究: 競技レベル, 劣等感および首尾一貫感覚 SOC に注目して」『Football Science』, 16, pp.27-39. (査読有) 2) 坂内くらら, 遠藤伸太郎, 大石和男 (2019) 「演奏前不安測定尺度 (PPAS) の作成」『音楽知覚認知研究』, 25 (1), pp.13-20. (査読有) 3) Yano, K., Kase, T., and Oishi, K. (2019) "The effects of sensory-processing sensitivity and sense of coherence on depressive tendencies in university students." Health Psychology Open, 6, 1-5. https://journals.sagepub.com (査読有)

論文	<p>4) Yano, K., Kase, T., and Oishi, K. (2020) "Sensory processing sensitivity moderates the relationships between life skills and depressive tendencies in university students." Japanese Psychological Research. https://doi.org/10.1111/jpr.12289 (査読有)</p> <p>5) 嘉瀬貴祥, 上野雄己, 島本好平, 大石和男 (2020) 「高い Sense of Coherence を持つ者の日常生活における問題への対処にかかわる行動や思考の特徴: 計量テキスト分析による質的検討」『ストレス科学研究』, 35, 印刷中 (査読有).</p>
学会発表	<p>1) Bannai, K., Endo, S., Oishi, K. (2019) 「The relationships among negative psychological and physical responses during performance and performance self-evaluation. Compared with music performance, sports game, daily life situation. The 14th International Congress of Physiological Anthropology.」 (2020年9月25-27日, Singapore, Singapore).</p> <p>2) Kimura, S., Yano, K. and Oishi, K. (2019) 「Is Mealtime Communication Effective for Improving Depressive Moods? The 14th International Congress of Physiological Anthropology.」 (2020年9月25-27日, Singapore, Singapore)</p> <p>3) 矢野康介, 大石和男 (2019) 「感覚処理感受性と自尊感情の適応的側面との関連」日本パーソナリティ心理学会 (2019年8月28日, 東京).</p> <p>4) 矢野康介, 遠藤伸太郎, 坂内くらら, 大石和男 (2019) 「感覚処理感受性と抑うつ傾向における因果関係の推定 — 2時点の短期的縦断データを用いた検討一.」日本心理学会 (2019年9月13日, 大阪).</p> <p>5) Yano, K., Endo, S., Bannai, K., Oishi, K. (2019) 「Causal relationships between sensory-processing sensitivity and metacognitive awareness: A short-term longitudinal study. ISSID (2019年7月30日, Florence, Italy).</p> <p>6) Yano, K. and Oishi, K. (2019) 「High sensory-processing sensitivity predicts dichotomous thinking in Japanese university students.」EHPS (2019年9月6日, Dubrovnik, Croatia).</p> <p>7) Kimura, S. and Oishi, K. (2019) 「Relationships among shared mealtimes quality, self-esteem, and mental health.」EHPS (2019年9月6日, Dubrovnik, Croatia).</p> <p>8) Yano, K., Kase, T. and Oishi, K. (2020) 「Reinvestigating the relationships between sensory processing sensitivity and life skills among Japanese samples.」Society for Personality and Social Psychology (2020年2月29日, New Orleans, United States).</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 2019年4月～2020年3月, 立教大学人権ハラスメントセンター・副センター長</p> <p>2) 2018年4月～2020年3月, 科研費基盤研究C「感覚処理感受性に着目した抑うつ低減モデルの構築 — 将来的な自殺予防に向けて—」</p>

氏名・専門領域	岡 桃子 ●子ども家庭福祉, 子育て支援
著書	<p>1) 岡桃子 (2019) 「男女共同参画と家庭における平等の具体化 — 社会と家庭における平等とは何かを問いつながら—」浅井春夫, 所貞之編『子ども家庭支援論 — 家族の多様性とジェンダーの理解 —』建帛社.</p> <p>2) 岡桃子 (2019) 「子育て不安」山田勝美, 良香織編『シードブック新版 子ども家庭福祉』建帛社.</p>
論文	岡桃子 (2020) 「地域を基盤とした子どもの育ちの保障～乳幼児から学童期の子育て家庭支援における子ども家庭支援センターの取り組み～」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』22, pp. 1-14, 立教大学コミュニティ福祉学部.
学会発表	大澤朋子, 早川悟司, 岡桃子, 瀧川侑磨 (2019) 「地域を基盤とした子どもの育ちの保障～社会的養護の新たな展開を考える～」第25回日本子ども虐待防止学会, 神戸, 12月.

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教女学院短期大学非常勤講師「児童福祉実践論」 2) 日本福祉大学非常勤講師「相談援助演習1・2」 3) 駿河台大学大学院非常勤講師「福祉心理学特論」 4) NPO法人IFCA SA(社会的養護経験者サポーターティブアダルト) 5) NPO法人湘南遊映坐理事, 事務局長, 復興支援事業担当(熊本県南阿蘇村応急仮設住宅, 立野学童保育所等) 6) 立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金(企画研究プロジェクトⅢ)「熊本地震に学ぶ災害時の子育て支援ネットワークの再構築における研究」研究代表者
-----------------	---

氏名・専門領域	加藤 晴康 ●スポーツ医学, 整形外科学
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 加藤晴康ほか(2019)「日本サッカー協会における整形外科医の役割 サッカー日本代表チーム帯同医師が行うこと」62巻, pp.1205-1212 整形・災害外科. 2) 松田貴雄, 加藤晴康ほか(2019)「若年エリート女子サッカー選手の除脂肪体重の縦断的变化とパフォーマンスとの関連についての考察」4巻, pp.61-70 Journal of High Performance Sport. 3) 加藤晴康ほか(2020)「位別・種目別の成長期スポーツ外傷・障害 成長期の下肢疲労骨折」39巻 pp.215-222 関節外科. 4) Lau WV, KATO H et al. 2019 “Water Intake After Dehydration Makes Muscles More Susceptible to Cramp but Electrolytes Reverse That Effect” BMJ Open Sport Exerc Med. 5 (1), e000478
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 赤羽達也, 檜山里美, 土肥美智子, 加藤晴康, 立石智彦, 池田浩(2019)「予防接種の通知の有用性と行動変容について JFAアカデミー福島での経験」第30回日本臨床スポーツ医学会, 横浜, 11月. 2) 後藤美奈, 檜山里美, 立石智彦, 加藤晴康, 土肥美智子, 松田貴雄, 池田浩(2019)「成長期女子サッカー選手に生じる貧血は利用可能エネルギー energy availability と関連性がある」第30回日本臨床スポーツ医学会, 横浜, 11月. 3) 檜山里美, 後藤美奈, 立石智彦, 加藤晴康, 土肥美智子, 松田貴雄, 池田浩(2019)「予測身長未到達選手は低体重を示す 成長曲線の男女比較およびPHVと身長・体重の因果関係を検討」第30回日本臨床スポーツ医学会, 横浜, 11月. 4) 加藤晴康, 立石智彦, 池田浩(2019)「スポーツ現場対応における諸問題 育成サッカー選手を中心に」第45回日本整形外科スポーツ医学会, 大阪, 8月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本サッカー協会医学委員会委員 2) サッカー男子日本代表SAMURAI BLUEチームドクター 3) 日本サッカー協会コーチライセンス講師(医学系)

氏名・専門領域	奇二 正彦 ●環境教育, 自然体験, スピリチュアリティ
論文	「スピリチュアリティと自然体験との関係」2019年度立教大学・コミュニティ福祉学研究所, 博士学位論文.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「はじめて人を誘う山」ランドネ2019年12月号, エイ出版. 2) 「自然体験がスピリチュアリティの醸成に及ぼす影響」日本トランスパーソナル心理学/精神医学 Vol.19, Mar, 2020, pp.31-49.
学会発表	Examination of the influence of short-term nature experience on spiritual pain. (e-poster) 2019, 24 th Annual Congress of the European College of Sports Science.

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) NPO法人生態教育センター理事 2) 昭和女子大学附属昭和こども園「自然観察会」講師 (2019年5月) 3) 世界農業遺産宮崎県椎葉村「焼畑生きもの調査」講師 (2019年5月) 4) 多摩北部広域子ども体験塾実行委員会「多摩北部広域子ども体験塾 ～サバイバルデイキャンプ～」講師 (2019年5月) 5) NPO法人ネイチャーリーダー江東「ネイチャー・フェスタ! Koto 2019」トークセッション「足もとの自然で子育てしよう～都市の自然と保育、場づくり、遊び～」講師 (2019年11月)
-----------------	---

氏名・専門領域	木下 武徳 ●社会福祉政策と福祉制度
論文	木下武徳 (2019)「スウェーデン社会福祉における権利保障のための取り組み～審査請求・オンブズマン制度を中心に～」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』7号, pp.19-33, 立教大学.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 木下武徳「アメリカの社会福祉」『令和元年度千葉県市町村職員海外派遣研修事前研修会「講演会」講演録』千葉県市町村振興協会, pp.48-74. 2) 聴力障害者情報文化センター・手話通訳士実態調査事業委員会 (2019)『手話通訳士実態調査報告書』(木下担当分 pp.6-81).
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 木下武徳 (2019)「スウェーデン社会福祉における権利保障のための取り組み～審査請求・オンブズマン制度を中心に～」第33回日本地域福祉学会, 岡山, 6月. 2) 小澤薫, 木下武徳 (2019)「生活保護ケースワーカーの意識と福祉事務所の組織体制—29福祉事務所のアンケート調査から」貧困研究会第12回研究大会, 静岡, 12月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 奥野英子, 木下武徳 (2019)「障害者福祉の基礎」『2019年度 第1回 手話通訳者現任研修』全国手話研修センター, 京都, 5月. 2) 木下武徳 (2019)「ケースワーカーとはどんな人? 福祉事務所はどんな職場?」『現代の貧困と福祉事務所での仕事づくり、職場づくり』公的扶助研究会・大阪府立大学教育福祉研究センター, 大阪, 5月. 3) 木下武徳 (2020)「障害者福祉の今～差別解消に向けて～」東京手話通訳等派遣センター『登録手話通訳者・要約筆記者研修会』, 東京, 2月.

氏名・専門領域	後関 慎司 ●アスレティックトレーナー概論
論文	後関慎司 (2019)「持久力を高めるために(発育・発達のタイミングを理解しておこう)」『サカママ』vol.32, pp.6-7ソル・メディア.
学会発表	土肥美智子, 後関慎司 (2019)「海外帯同メディカルスタッフの役割とは」第30回日本臨床スポーツ医学会学術会, 神奈川, 11月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) サッカー日本代表OB戦, アスレティックトレーナー帯同, 東京, 1月 2) サッカー日本代表国際親善試合, アスレティックトレーナー帯同, 神戸, 3月

氏名・専門領域	後藤 広史 ●貧困・ホームレス問題, 生活困窮者の自立支援
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 後藤広史 (2019)「生活困窮者支援とソーシャルワーカー就労自立支援サービスを中心として」埋橋孝文, 同志社大学社会福祉教育・研究支援センター編『貧困と就労自立支援再考』法律文化社. 2) 後藤広史 (2020)「ホームレス状態にある人々からみた福祉施策」山口恵子, 青木秀男編『グローバル化の中の都市貧困—大都市におけるホームレスの国際比較』ミネルヴァ書房.

論文	後藤広史, 稲葉剛, 三村祐介, 大澤優真 (2019) 「ハウジングファーストの効果検証に関する研究—日本におけるホームレス支援の新たな可能性」『貧困研究』23, pp.105-116.
学内・学外における社会的活動等	1) 社会福祉学会機関誌査読委員 2) 貧困研究会運営委員・事務局 3) 社会福祉系学会連合運営委員 4) 岩手県社会福祉研修講師 5) 文京区社会福祉協議会夏の体験ボランティアオリエンテーション講師

氏名・専門領域	権安理 ●公共・社会哲学, 公共空間論
資料・研究ノート等	1) 権安理 (2019) 「自由論——学生の自由から考えるパーリンとカント」『まなびあい』第12号, pp.128-132 立教大学コミュニティ福祉学部. 2) 権安理 (2019) 「提題1『公共的』なものをめぐる大きな歴史=物語から小さな実践へ」『倫理学年報』第69集, pp.62-65 日本倫理学会.
学会発表	権安理 (2019) 「『公共的』なものをめぐる大きな歴史=物語から小さな実践へ」第70回日本倫理学会, 山口大学, 10月.
学内・学外における社会的活動等	1) 立教大学コミュニティ福祉学会事務局長 2) 関東地区大学教育研究会幹事 3) としまくらし会議2019 学術アドバイザー 4) 立教大学比較文明学会研究交流会コメンテーター

氏名・専門領域	斉藤知洋 ●計量社会学, 社会階層論, 家族社会学
論文	【査読有】 1) 斉藤知洋 (2020) 「シングルマザーの正規雇用就労と経済水準への影響」『家族社会学研究』第32号1巻, pp.20-32. 【査読無】 2) 斉藤知洋 (2019) 「シングルマザーの正規雇用就労を阻む『障壁』」『季刊個人金融』第14号2巻, pp.112-121.
資料・研究ノート等	【文献紹介】 斉藤知洋 (2019) 「中村高康, 平沢和司, 荒牧草平, 中澤涉 (編) 『教育と社会階層——ESSM全国調査からみた学歴・学校・格差』」『家族社会学研究』第31号1巻, p.95.
学会発表	斉藤知洋 (2019) 「シングルマザーの正規雇用就労への障壁」第66回東北社会学会大会, 仙台, 7月.
学内・学外における社会的活動等	【外部競争資金】 1) 科学研究費助成事業 (研究活動スタート支援) 「ひとり親世帯の階層状況と就労・世代間再生産に関する社会学的研究」研究代表者 (課題番号: 18H05721, 19K20918) 2) 科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)) 「社会階層と高等教育からの中退の関連にかんする国際比較研究」研究分担者 (研究代表者: 三輪哲 東京大学社会科学研究所教授) (課題番号: 19H01556) 3) 科学研究費助成事業 (基盤研究 (A)) 「学校卒業後の若年層の就業・家族形成に関する追跡調査」研究協力者 (研究代表者: 中澤涉 大阪大学大学院人間科学研究科教授) (課題番号: 19H00608) 4) 科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)) 「中学時からの親子パネル調査を活用した格差・不平等に関する領域横断的研究」研究協力者 (研究代表者: 藤原翔 東京大学社会科学研究所准教授) (課題番号: 19H01637)

学内・学外における社会的活動等	<p>5) 科学研究費助成事業(若手研究)「ワークフェア改革の帰結:日英のシングルマザーの生活時間から」研究協力者(研究代表者:余田翔平 国立社会保障・人口問題研究所室長)(課題番号:19K13902)</p> <p>6) 立教大学コミュニティ福祉研究所 学術研究推進資金(企画研究プロジェクトⅢ)「未婚化/少子化時代における高齢者の福祉・ケア構造に関する実証的研究」研究代表者</p> <p>【学外における社会的活動等】</p> <p>7) 東北社会学会『社会学年報』編集委員会委員</p> <p>8) 慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター JPSC部門 外部研究委員</p> <p>9) 国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」研究プロジェクト外部委員</p>
-----------------	---

氏名・専門領域	阪口 毅 ●都市社会学, 地域社会学, コミュニティ論
著書	<p>1) 阪口毅 (2019)「立川プロジェクトの始動——新たな「契約」の行方」新原道信編著『“臨場・臨床の智”の工房——国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究』中央大学出版部.</p> <p>2) 阪口毅, 大谷晃, 鈴木将平 (2019)「いくつもの『もうひとつの立川プロジェクト』」新原道信編著, 同上書.</p> <p>3) 阪口毅 (2020)「移動性と領域性のジレンマを超えて——コミュニティ研究における時間・場所・身体」新原道信, 宮野勝, 鳴子博子編著『地球社会の複合的諸問題への応答の試み』中央大学出版部.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 共住懇 (2019)『合本OKUBO』編集・発行</p> <p>2) 日本学術振興会科学研究費(若手研究)「コミュニティの移動性と領域性に関する歴史社会学的研究:立川・砂川を事例として」2019-2022年度</p>

氏名・専門領域	芝田 英昭 ●社会学, 社会保障論
著書	芝田英昭 (2019)『医療保険「一部負担」の根拠を追う』自治体研究社.
論文	<p>1) 芝田英昭 (2019)「『全世代型社会保障』の本質と課題1」『わかやまの住民と自治』第314号, pp.1-4 和歌山県地域・自治体問題研究所.</p> <p>2) 芝田英昭 (2019)「『全世代型社会保障』の本質と課題2」『わかやまの住民と自治』第315号, pp.5-8 和歌山県地域・自治体問題研究所.</p> <p>3) 芝田英昭 (2019)「人生100年時代の社会保障制度改革「骨太方針2019」から見えてくるもの」『高齢期運動ブックレット』No.4, pp.1-24 日本高齢期運動サポートセンター.</p> <p>4) 芝田英昭 (2019)「2020年の日本経済をどうみるか」『経済』No.203, pp.15-43 新日本出版社.</p> <p>5) 芝田英昭 (2019)「社会保障をもうけの対象に!? 「全世代型社会保障」ねらい」『福祉のひろば』通巻605号, pp.48-53 総合社会福祉研究所.</p> <p>6) 芝田英昭 (2019)「全世代型社会保障検討会議「中間報告」の批判的検討」『生活と健康』No.1108, pp.10-20 全国生活と健康を守る会連合会.</p> <p>7) 芝田英昭 (2019)「政府の「全世代型社会保障」は何を目指すのか」『月刊民商』No.717, pp.37-42 全国商工団体連合会.</p> <p>8) 芝田英昭 (2019)「『全世代型社会保障への転換』の目指す方向と課題」『コミュニティ福祉学部紀要』第22号, pp.15-42 立教大学.</p>
資料・研究ノート等	芝田英昭 (2019)「受診抑制につながる一部負担…社会保障としての医療の実現」『民医連新聞』第1702号, p.7 全日本民主医療機関連合会.

学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 芝田英昭 (2019) 「医療保険一部負担の根拠を追う…厚生労働白書では何が語られたのか」日本医療福祉政策学会第3回研究大会, 北九州市立大学 (福岡), 2019年12月8日. 2) 芝田英昭, 佐藤嘉夫, 矢部広明, 土屋俊彦 (2019) 「社会保障・介護保険制度改革に向けた国の2報告書の意図を読み解く」全国老人問題研究会・社会保障政策研究会合同シンポジウム, 立教大学 (東京), 2020年1月25日.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自治体問題研究所 理事 2) ニュージーランド学会 理事 3) 日本医療福祉政策学会 理事 4) 埼玉県社会保障推進協議会 副理事長 5) 医療生協さいたま生活協同組合 理事 6) 全国老人問題研究会 運営委員 7) 立教大学体育会弓道部 部長

氏名・専門領域	杉浦 克己 ●スポーツ栄養学
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 杉浦克己 (2020) みんなのスポーツ栄養. 『イラストでみる最新スポーツルール' 20』 pp.16-17, 大修館書店. 2) 杉浦克己 (2020) 第7章 サプリメント摂取の考え方. (公益財団法人) 日本陸上競技連盟医事委員会編著, 『今より強く! を目指して～アスリートの身体づくりと食のエッセンス～』 pp.115-123, ライフサイエンス出版.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 杉浦克己 (2020) ダイエットフィットネス科目を履修すると学生の体組成は好ましい状態に変化する. コミュニティ福祉学部紀要 第22号, pp.43-52. 単著 2) 杉浦克己 (2020) オフ期の過ごし方. JATI EXPRESS 75号, pp.14-17. 単著 3) 杉浦克己 (2019) チームスポーツ (球技系) の栄養. JATI EXPRESS 74号, pp.12-15. 単著 4) 杉浦克己 (2019) 糖質制限食. JATI EXPRESS 73号, pp.12-15. 単著 5) 杉浦克己 (2019) 1964年東京オリンピックの栄養サポートから考える. JATI EXPRESS 72号, pp.12-15. 単著 6) 杉浦克己 (2019) 食育基本法 (その2). JATI EXPRESS 71号, pp.14-17. 単著 7) 杉浦克己 (2019) 食育基本法 (その1). JATI EXPRESS 70号, pp.12-15. 単著
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 杉浦克己 (2020) 高齢者の栄養学 第2回. E.E.O.A. 78号, pp.7-9. 単著 2) 杉浦克己 (2020) 高齢者の栄養学 第1回. E.E.O.A. 77号, pp.9-11. 単著
学内・学外における社会的活動等	<p>【学内】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学コミュニティ福祉研究所所長 2) 立教大学ウエルネス研究所所員 3) 立教大学体育会拳法部部長 <p>【学外】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 株式会社明治 顧問 2) 埼玉県新座市 健康づくり推進協議会副会長 3) 埼玉県新座市民総合大学 健康増進学部健康づくり学科 コーディネーター 4) (公財) 日本バレーボール協会科学研究委員会 ハイパフォーマンス事業本部 ハイパフォーマンスサポート委員会 ニュートリションユニット長 5) 日本体力医学会評議員 6) NPO法人日本トレーニング指導者協会 (JATI) 参与 7) (公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟 指導者養成講習会講師 8) (公財) 体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会講師 9) 健康経営エキスパートアドバイザー (東京商工会議所)

氏名・専門領域	杉山 明伸 ●医療ソーシャルワーク, 精神保健福祉
論文	保正友子, 杉山明伸, 榎木博之 (2019) 「医療ソーシャルワーカーが不本意退職に至る重層的要因の解明」『医療と福祉』No.105, pp.50-57, 日本医療社会福祉協会.
学会発表	瀬戸島美陽, 安井知之, 杉山明伸他 (2019) 「透析患者の終末期における意思決定支援についての一考察」第25回埼玉県医療社会事業学会, 埼玉, 6月.
学内・学外における社会的活動等	1) 公益社団法人埼玉県医療社会事業協会会長 2) 社会福祉法人ふれあい福祉協会評議員 3) 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会契約締結審査会委員 4) 自治医科大学附属さいたま医療センター臨床研究倫理審査委員会委員

氏名・専門領域	鈴木 弥生 ●社会開発論
論文	1) Yayoi Suzuki and Zane Ritchie (2019) <i>A Study of the Living Conditions of Bangladeshi Women Migrants in New York City</i> , Journal of the Institute of Community and Human Services, Rikkyo University, No.7, pp.35-56. 2) Yayoi Suzuki, Zane Ritchie and Masaru Yamazaki (2020) <i>Local People's Perspectives in Social Development: An Analysis of the Contents of a Collaborative Learning Class</i> , Bulletin of the College of Community and Human Services, Rikkyo (St.Paul's) University, No.22, pp.53-84.
学内・学外における社会的活動等	1) コミュニティ福祉研究所主催公開講演会開催 (2019年12月14日) 14:30 ~ 16:30, 池袋キャンパス, Dani Nehushtai, <i>The Role of Democracy for People around over the World to Create a Peaceful Society without Nuclear Weapons and War: Is it Good to die for the Country?</i> (核と戦争のない平和な世界をつくるためのデモクラシーの役割: 国のために死ぬのはすばらしいのか? 【疑問】) 使用言語: 英語 (日本語による要約あり). 2) 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 「ニューヨーク市におけるバングラデシュ出身の移民: 移民第二世代の生活実態調査」(基盤研究C) 研究代表者: 鈴木弥生 (2019 ~ 2022年度予定), 継続中。研究実施報告書および収支状況報告書提出済み。

氏名・専門領域	田中 悠美子 ●高齢者福祉, 認知症ケア
資料・研究ノート等	田中悠美子 (2020) 「若年認知症ねりまの会MARINE ~本人・配偶者・子どもごとに語り合える場を提供~」東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課『若年性認知症本人の通いの場をつくるガイドブック 事業所における実践ポイント』pp.78-79.
学会発表	田中悠美子 (2019) 「本人・家族・市民協働の暮らしづくりをめざして」シンポジウム8 若年性認知症の臨床と社会支援, 第34回老年精神医学会, 宮城, 6月.
学内・学外における社会的活動等	1) 東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム研究員 2) 東京都若年性認知症支援事業検討委員会委員 3) 埼玉県市町村総合相談支援体制構築推進部会委員 4) さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会委員長 5) さいたま市地域包括支援センター運営協議会委員 6) 社会福祉法人マザアス 若年性認知症の就労推進プロジェクトチーム委員 7) 社会福祉法人練馬山彦福祉会評議員 8) 一般社団法人福祉用具活用相談センター理事 9) 一般社団法人日本ケアラー連盟理事 10) 若年認知症ねりまの会 MARINE 代表 11) 練馬区民向け認知症サポーター養成講座講師「認知症を学び地域で支えよう」練馬区役所 (2019年8月24日)

学内・学外における社会的活動等	12) 社会福祉協議会三芳町社会福祉協議会福祉大学講師「若年性認知症～地域で共生していくために～」藤久保公民館ホール(2019年10月1日) 13) 淑徳短期大学非常勤講師「生活支援技術Ⅱ」
-----------------	--

氏名・専門領域	長倉 真寿美 ●高齢者福祉論, コミュニティケア論
資料・研究ノート等	1) 「高齢者の地域での暮らしを支える住宅とは～サービス付き高齢者向け住宅、多世代共同住宅からの学び～」(2019)『まなびあい第12号』pp.137-143. 2) 「2019年度新任民生委員・児童委員研修資料」(2019年5月23日) pp.6-18 東京都民生児童委員連合会. 3) 「2019年度新任民生委員・児童委員研修資料」(2019年8月22日) pp.6-18 東京都民生児童委員連合会. 4) 「2019年度現任民生委員・児童委員研修資料」(2019年10月10日) pp.13-26 東京都民生児童委員連合会. 5) 「2019年度新任民生委員・児童委員研修資料」(2019年12月17日) pp.22-34 東京都民生児童委員連合会.
学内・学外における社会的活動等	1) 豊島区介護保険事業計画推進会議委員 2) 豊島区都市計画審議会委員 3) 江東区地域福祉計画策定委員会委員長 4) 江東区社会福祉法人地域協議会会長 5) 江東区地域福祉活動計画策定・推進委員会委員長 6) 江東区地域福祉活動計画策定・推進委員会作業部会会長 7) 社会福祉法人至誠学舎立川評議員 8) 東京都民生児童委員連合会新任民生委員・児童委員研修会講師 9) (公財)いきいき埼玉彩の国いきがいがい大学「若い世代との交流事業」講師・コーディネーター 10) 立教大学コミュニティ福祉学会編集委員会委員長 11) 立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト委員長

氏名・専門領域	中村 大輔 ●運動生理学, スポーツ医学
著書(翻訳)	中村大輔(2020)『スポーツコーチのためのトレーニング生理学』第8章 運動中におけるエネルギー変換, ヤンバングスボ著, 安松幹展, 宮城修監訳, 大修館書店, 東京, pp.73-87, 2月.
論文	1) 中村大輔, 長谷川博, 中村真理子, 萩原正大, 高橋英幸. (2019) 「エリート女子セーリング選手におけるレース間の冷却戦略が生理学的指標および主観的指標に与える影響」. 『Journal of High Performance Sport』4, pp.145-153. 2) 中村大輔, 中村真理子, 早川直樹. (2019) 「第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)および事前キャンプ中におけるU23サッカー男子日本代表チームを対象としたコンディション評価～External loadおよびInternal loadの双方を用いた検討～」. 『Journal of High Performance Sport』4, pp.176-187. 3) Daisuke Nakamura, Koji Muraishi, Hiroshi Hasegawa, Mikinobu Yasumatsu, Hideyuki Takahashi. (2020) "Effect of a cooling strategy combining forearm water immersion and a low dose of ice slurry ingestion on physiological response and subsequent exercise performance in the heat" Journal of Thermal Biology, in press.
資料・研究ノート等	1) 中村大輔, 安松幹展. (2019) 「競技現場での水分補給を考える」. 『JFA TECHNICAL NEWS』vol.92. 2) 中村大輔(2019) 「パフォーマンス発揮と気象条件～気象に関する知識を利用し、夏場のコンディショニングに生かす～」JFA TECHNICAL NEWS, vol.93.

資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 3) 中村大輔, 中村真理子, 菊島良介, 早川直樹. (2020)「オリンピックに向けたコンディション評価」. JFA TECHNICAL NEWS, vol.95. 4) 中村大輔・安松幹展 (2020)「連戦における栄養摂取とパフォーマンス発揮～筋グリコーゲンの回復と総移動距離の変化～」JFA TECHNICAL NEWS, vol.96. 5) 中村大輔 (2020)「トレーニング中断後のコンディショニングを考える～トレーニングの中断による体方面への影響～」JFA TECHNICAL NEWS, vol.97. 6) 中村大輔 (2020)「トレーニング中断後のコンディショニングを考える～お風呂を使った暑熱順化 ①～」JFA TECHNICAL NEWS, vol.97. 7) 中村大輔 (2020)「トレーニング中断後のコンディショニングを考える～お風呂を使った暑熱順化 ②～」JFA TECHNICAL NEWS, vol.97.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Nakamura, M., Nakamura, D., Yasumatsu, M., Takahashi, H. (2019) "Influence of intake of ice slurry on core temperature and blood pressure during acute recovery period after endurance exercise in hot environment" 24 th Annual Congress of the European College of Sport Science, Prague, July. 2) Nakamura, D., Yasumatsu, M., Tobita, A., Nakamura, M., Ishi, Y., Tanabe, Y., Takahashi, H. (2019) "Pre-match muscle glycogen levels of three matches in 1 week based on high carbohydrate intake" 24 th Annual Congress of the European College of Sport Science, Prague, July. 3) Muraishi, K., Nakamura, D., Takahashi, H., Yasumatsu, M. "Combined effects of low-dose ice slurry ingestion and forearm cooling on thermoregulation and physical capacity during exercise in hot environments" International Conference on Environmental Ergonomics, Amsterdam, July. 4) 村石 光二, 中村 大輔, 高橋 英幸, 安松 幹展. (2019)「ハーフタイムでの前腕冷却とアイススラリー摂取の組み合わせによる身体冷却効果」, フットボール学会, 大東文化大学,12月.
学内・学外における社会的活動等	日本サッカー協会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー

氏名・専門領域	西田 恵子 ●社会福祉学, 地域福祉論
論文	西田恵子 (2019)「コミュニティの持続に関わる人材の確保と育成に向けた計画的取組の必要性 ― 地域福祉の視座から ―」公益財団日本都市センター『コミュニティの人材確保と育成―協働を通じた持続可能な地域社会―』所収 pp.121-158.
資料・研究ノート等	西田恵子 (2019)「インフォーマルケア」、「孤立死」、「災害ボランティア」、「住民懇談会」、「住民自治」、「地域福祉活動計画」、「地縁型組織」、「地区社会福祉協議会」、「コミュニティワーカー」社会福祉学習双書編集委員会編『社会福祉学習双書2020学びを深める福祉キーワード集』全国社会福祉協議会.
学会発表	西田恵子 (2019)「日本におけるララ物資配分体制の構築過程 ― 1946 (昭和21)年の配分開始期に焦点をあてて ―」日本社会福祉学会, 大分, 9月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「ララ救援物資の形成・配分過程～関与機関・団体の多様性とその帰結～」研究代表者 (2018-2021年度) 2) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「養老院・養老施設の経営・運営と処遇 (ケア)の質に関する研究」岡本多喜子研究代表者 研究分担者 (2016-2019年度) 3) 日本都市センター「地域社会を運営するための人材確保と人づくりの在り方に関する研究会」委員 4) 東海村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会委員長 5) 高島町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会委員長 6) 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 社会福祉主事講習「社会福祉概論」

氏名・専門領域	濁川 孝志 ●心身ウエルネス論, 野外環境論, 星野道夫論
著書	濁川孝志(2020)『ガイアの伝言～龍村仁の軌跡』でくのぼう出版.
論文	濁川孝志(2020)『星野道夫の神話と現代社会』日本トランスパーソナル心理学/精神医学会19(1), pp.1-20.
資料・研究ノート等	濁川 孝志(2020)『星野道夫と日本人の霊性』立教大学コミュニティ福祉学部紀要 第22号, pp.103-107.
学会発表	Kiji, M., Kase, T., Nigorikawa, T.: Examination of the influence of short-term nature experience on spiritual pain. 24th European College of Sport Science, DataBase: http://wp1191596.server-he.de/DATA/CONGRESSES/PRAGUE2019/ABSTRACTS/ePosters_2019/uploads/0601.pdf (2019)
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 『星野道夫 永遠の祈り』山波言太郎総合文化財団, リラ自然音楽研究所(鎌倉), 4月. 2) 『星野道夫を語る』トータルヘルス促進協会(ティアラ江東), 5月. 3) シンポジウム「星野道夫とガイアの未来」開催(立教大学), 10月. 4) シンポジウム「霊性と現代社会」(立教大学), 12月.

氏名・専門領域	沼澤 秀雄 ●トレーニング科学, コーチ学
著書	EXERCISE AND TRAINING PHYSIOLOGY —A simple approach Includes newest scientific findings — 安松幹展, 宮城修監訳(2019)『スポーツコーチのためのトレーニング生理学』沼澤秀雄 「第5章 筋(pp.43-52)」大修館書店.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 沼澤秀雄, 小林敬和, 桜井智野風(2019)「児童期におけるバランス、リズム、タイミングを考慮した室内運動プログラム(BRTプログラム)の検証」、『フューチャーアスレティックス』第7号, pp.11-17. 2) 森健一, 小林敬和, 沼澤秀雄, 井筒紫乃(2019)「特別授業におけるキッズアスレティックスの満足度および基本的運動に対する意識調査」、『フューチャーアスレティックス』第7号, pp.18-27.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 沼澤秀雄(2020) シンポジウム「現代の子どもの生活とレクリエーション」レジャー・レクリエーション研究 第90号, p.35. 2) 沼澤秀雄(2020) 特集: 最新「骨格筋」研究「ジュニアアスリートへのトレーニングの処方方法」『コーチング・クリニック』1月号, pp.16-19.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学 体育会長 2) 日本レジャー・レクリエーション学会副会長 3) 日本ウエルネス学会理事 4) 日本陸上競技連盟指導者養成委員会副部長 5) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 6) 日本キッズアスレティックス協会理事 7) 大学スポーツライミング協会副会長 8) 日本陸上競技連盟ジュニアコーチ、公認コーチ、U13クリニック、U16クリニック、指導者講習会講師 9) キッズアスレティックスインストラクター養成講習会講師 10) 日本サッカー協会指導者育成講習会A級U12講師、リフレックス講習講師 11) 日本サッカー協会サッカーアカデミーランニングコーディネーションコーチ

氏名・専門領域	原田 晃樹 ●地方自治, 行政学
論文	1) 原田晃樹「公共調達・契約における社会的価値評価 — 社会的インパクト評価の実際とサード・セクターの持続可能性の視点から—」『自治総研』493号, 2019年11月号, pp.35-71, 査読有. 2) 原田晃樹「公的サービスの外部化と公契約 — 英国の自治体公契約における社会的価値評価の動向と日本の課題—」『とうきょうの自治』115号, 2019年12月号, pp.2-8, 査読無.
資料・研究ノート等	原田晃樹「RSLの理念と実践: 行動する市民となるためのシチズンシップ教育 (講演録 平成30年度 教育開発シンポジウム 学士課程教育におけるシチズンシップ教育)」『國學院大學教育開発推進機構紀要』11, pp.93-101, 2020年3月.
学会発表	1) 原田晃樹「自治体調達における社会的価値評価の動向と非営利組織との関係」日本NPO学会 (龍谷大学), 2019年6月2日. 2) 原田晃樹「サード・セクター組織の参加機能とその社会的価値」日本地方自治学会 (日本大学), 2019年11月23日. 3) 原田晃樹「公共調達における社会的価値 — 社会的インパクト評価の限界と政策的基盤の必要性」2019年度全国若者ひきこもり協同実践交流会 (作新学院大学), 2020年2月15日 (招待報告).
学内・学外における社会的活動等	(学内役職) 1) 立教大学サービスラーニングセンターセンター長 2) コミュニティ福祉研究科前期課程主任 (学外役職) 3) 四日市市市行財政改革推進会議会長 4) 新座市子ども子育て会議会長 5) 新座市総合計画審議会副会長 6) 鎌倉市市民活動推進委員会会長 7) 豊島区南大塚保育園運営委員会委員 8) 社会福祉法人ふきのとう評議委員 9) 社会的企業研究会運営委員 10) 公益財団法人地方自治総合研究所「格差是正と地方自治研究会」委員 (調査研究受託) 11) 大日本印刷株式会社委託研究調査「地方自治体窓口申請手続きの情報化」受託 (講演・研修) 12) 原田晃樹「協同事業組織に見る地域の誇りの取り戻しと継承」2018年度全国中小企業団体中央会 第6回情報提供研修会 (全国中小企業団体中央会), 2019年2月7日 13) 原田晃樹「市民活動を取り巻く状況」これからの市民活動・協働を考えるシンポジウム (鎌倉商工会議所), 2019年6月22日. 14) 原田晃樹「自治基本条例をどう活用するか みんなでつくろう すみよいこしがや」越谷市自治基本条例施行10周年講演会 (越谷市中央市民会館), 2019年10月4日

氏名・専門領域	平井 太規 ●社会学 (家族・階層・生活時間)
論文	【査読有】 1) 平井太規 (2019)「家族形成期の共働き世帯における夫の家事・育児分担とその規定要因」『統計学』第116号, pp.13-25 経済統計学会. 2) 平井太規 (2019)「妊娠先行型結婚と子ども数 — JGSS-2009LCS の分析から—」『社会学雑誌』第35号, pp.212-225 神戸大学社会学研究室. 3) 平井太規, 小島奈名子 (2019)「日本マンガの受容と対日イメージの構築 — 「サブカルプロジェクト in アジア」の分析から—」『社会学雑誌』第35号, pp.202-211 神戸大学社会学研究室.

論文	<p>4) 平井太規 (2019) 「未婚者の交際状況：若年パネル調査 (JLPS-Y) データを用いた二項ロジット分析」『統計学』第117号, pp.17-32 経済統計学会</p> <p>【査読無】</p> <p>5) 平井太規 (2019) 「休日における夫の家事・育児動向の時系列的推移 — 「社会生活基本調査」政府統計匿名データの分析から—」『一橋大学経済研究所 Discussion Paper Series A』第691号, pp.1-18 一橋大学経済研究所.</p>
学会発表	<p>【招待有】</p> <p>平井太規 (2020) 「「家事・育児時間」再考 — 「社会生活基本調査」政府統計匿名データの調査票Bを用いた試論的分析 — 」一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター匿名データ等利用推進ワークショップ (共催：神戸大学マイクロデータセンター) (於：一橋大学) 2020年3月.</p>

氏名・専門領域	平野 方紹 ●社会福祉行財政, 公的扶助, 障害福祉政策
著書	平野方紹 (2020) 「福祉行財政の実施体制」蟻塚昌克, 関川芳孝編『社会福祉学習双書2020 社会福祉概論Ⅱ — 福祉行財政と福祉計画／福祉サービスの組織と経営 —』全国社会福祉協議会.
論文	<p>1) 平野方紹 (2019) 「「全世代型社会保障」という虚像と真の狙い」(単著)『そよ風』No.45 (埼玉自治体問題研究所), pp.3-7.</p> <p>2) 平野方紹 (2020) 「報酬から見える障害福祉政策の方向と政治状況」(単著)『みんなのねがい』(全国障害者問題研究会) 2020年3月号, No.648, pp.22-24.</p>
資料・研究ノート等	平野方紹 (2020) 第3章 第5節「6. 生活を支える諸制度」「7. 住生活を支える諸制度」(単著)『介護福祉士実務研修テキスト 第1巻 人間と社会』太田貞治, 上原千寿子, 白井孝子監修 中央法規出版, pp.244-255.
学会発表	<p>1) 厚生労働科学研究「障害者ニーズを踏まえた障害福祉サービス量の推計手法に関する調査研究」検討委員 報告書 (2020年3月).</p> <p>2) 厚生労働科学研究「障害福祉サービス事業所による障害福祉報酬請求に関する帳票等の削減に向けた調査研究」検討委員 報告書 (2020年3月).</p> <p>3) 厚生労働科学研究「共生型サービスに関する実態調査」検討委員 報告書 (2020年3月).</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 立教大学ボランティアセンター長</p> <p>2) 厚生労働省社会福祉住居施設及び生活保護受給者に対する日常生活支援の在り方に関する検討会構成員</p> <p>3) 厚生労働省障害福祉サービス等報酬改定検討チームアドバイザー</p> <p>4) 厚生労働省障害者総合支援法対象疾病検討会副会長</p> <p>5) 介護福祉士国家試験委員会副委員長</p> <p>6) さいたま市障害者政策委員会委員長</p> <p>7) さいたま市地域密着型サービス運営委員会委員長</p> <p>8) さいたま市社会福祉法人設立認可等審査委員会委員</p> <p>9) 川越市社会福祉審議会委員 (児童福祉審議会会長)</p> <p>10) 新座市障がい者施策委員会委員長</p> <p>11) 志木市地域自立支援協議会会長</p> <p>12) 世田谷区保健福祉サービス向上委員会委員</p> <p>13) 全国社会福祉協議会福祉サービスの質向上委員会委員 (苦情解決委員会委員長)</p> <p>14) 社会福祉法人全国社会福祉事業団協議会評議員</p>

氏名・専門領域	藤井 敦史 ●NPO, 社会的企業, コミュニティ開発論
論文	藤井敦史 (2019)「社会的連帯経済を考えるーカール・ポランニーのレンズを通して見る社会的連帯経済ー」、『協同組合研究』第39巻第2号, pp.14-20頁.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 藤井敦史 (2019)「社会的連帯経済を考えるーカール・ポランニーのレンズを通して見る社会的連帯経済」, 日本協同組合学会春季大会シンポジウム(駒沢大) (招待報告) 5月25日. 2) 藤井敦史 (2019)「協同組合とNPOが出会う場所としてのコミュニティ (第一報告) 社会的連帯経済における協同組合とNPOの融合」日本NPO学会パネル報告(龍谷大) 6月2日. 3) 藤井敦史 (2019)「英国市民社会におけるレジリエンスの条件ーイースト・ロンドンのコミュニティ開発調査を中心にー」日本NPO学会パネル報告(龍谷大) 6月2日. 4) 藤井敦史 (2019) 日本地域福祉学会日韓学術交流企画「日韓の社会的企業による地域福祉実践ー実践知の共有と拡散」コメント(川崎医療福祉大学) 6月9日.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本NPO学会理事(学術委員会担当) 2) 社会的企業研究会会長 3) 生活クラブ生協神奈川員外理事 4) NPO法人アジア太平洋資料センター(PARC)理事 5) 市民セクター政策機構理事

氏名・専門領域	松尾 哲矢 ●スポーツ社会学, スポーツプロモーション論
著書	松尾哲矢, 平田竹男編著(2019)『パラスポーツ・ボランティア入門ー共生社会を実現するために』旬報社.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 中山健二郎, 松尾哲矢(2019)「高校野球に纏わる「物語」の再生産に関する分析枠組みの検討ー「カーニヴァル」的メディア受容態度に着目してー」『九州レジャー・レクリエーション研究』第7号, pp.7-18九州レジャー・レクリエーション学会. 2) 松尾哲矢(2020)「日本レジャー・レクリエーション学会の役割と三者連携」『レジャー・レクリエーション研究』第90号, pp.67-73日本レジャー・レクリエーション学会.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 松尾哲矢他(2020)日本財団パラリンピックサポートセンター・立教大学ウエルネス研究所 立教大学東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト共催シンポジウム報告書「地域におけるパラスポーツ振興パラリンピックムーブメントとの連動」. 2) 松尾哲矢(2020)「スポーツ・運動指導者(部活動指導者を含む)の養成と活用」『健康づくり』No.502, pp.10-13.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ庁 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト(SRIP) フォロアアップ評価委員会 委員 2) スポーツ庁 スポーツエルカンパニー選考委員 3) 東京都スポーツ振興審議会 会長 4) 東京都港区スポーツ推進計画検討委員会 委員長 5) (公財)日本スポーツ協会指導者育成専門委員会 委員 6) (公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度検討プロジェクト 座長 7) (公財)日本スポーツ協会指導者育成専門委員会 スポーツ指導者育成事業推進プロジェクト 座長 8) (公財)日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会 委員 9) (公財)日本スポーツ協会国際専門委員会 委員 10) (公財)日本レクリエーション協会 理事 11) (公財)日本レクリエーション協会公認指導者資格認定委員会 委員

学内・学外における社会的活動等	12) (一社)日本体育学会 代議員 13) 日本スポーツ社会学会 編集委員会委員 14) 日本レジャー・レクリエーション学会 理事 15) 日本スポーツ産業学会 理事 16) 東京体育学会 理事 17) スポーツ庁受託事業 公益財団法人日本レクリエーション協会「『運動部活動改革プラン』～スポレク部の創設の取り組み～」有識者会議委員長
-----------------	---

氏名・専門領域	松山 真 ●医療ソーシャルワーク, ソーシャルワーク理論
学内・学外における社会的活動等	1) 陸前高田市『まち・ひと・しごと総合戦略会議』委員 2) キャリアコンサルティング技能検定委員 3) 高田高校未来創造協議会委員

氏名・専門領域	丸山 晃 ●障害者福祉, 福祉マネジメント
論文	1) 丸山晃 (2019)「介護の魅力と外国人介護福祉士」『介護福祉士』No.24, pp.17-19. 日本介護福祉士会. 2) 木口恵美子, 小泉隆文, 丸山晃 (2020)「知的障害者の意思決定支援に向けたICT活用の現状と課題」『福祉社会開発研究』No.12, pp.29-36. 東洋大学福祉社会開発研究センター. 3) 清野絵, 丸山晃 (2020)「就労継続支援B型サービス提供者におけるICT活用の実態と可能性: 精神障害、知的障害、身体障害の障害種別の比較」『福祉社会開発研究』No.12, pp.37-50. 東洋大学福祉社会開発研究センター. 4) 小泉隆文, 木口恵美子, 丸山晃 (2020)「就労継続支援B型事業所におけるタブレットの活用に関する一考察」『福祉社会開発研究』No.12, pp.61-67. 東洋大学福祉社会開発研究センター.
学内・学外における社会的活動等	1) 公益社団法人東京社会福祉士会理事・副会長 2) 東京都福祉人材対策推進機構専門部会委員 3) 港区障害者地域自立支援協議会副会長 4) 港区地域保健福祉推進協議会委員 5) 世田谷区自立支援協議会委員 6) 板橋区福祉有償運送運営協議会副会長 7) 練馬区障害者計画懇談会副座長 8) 朝霞市地域福祉計画推進委員会委員 9) 特定非営利活動法人しあわせなみだ監事 10) 公益社団法人日本介護福祉士会・専門誌「介護福祉士」編集委員 11) 公益社団法人杉並区成年後見センター苦情解決委員 12) 板橋総合ボランティアセンター運営委員会委員長 13) 日本ソーシャルワーク学会・選挙管理委員会委員 14) 東洋大学福祉社会開発研究センター客員研究員

氏名・専門領域	三宅 雄大 ●社会福祉学, 貧困・低所得対策
著書	岡部卓, 三宅雄大 (2019)「社会保障とナショナル・ミニマム——〈福祉の論理〉から見た子どもの貧困と生活保護」山野良一, 湯澤直美編/松本伊智郎編集代表『シリーズ子どもの貧困 ⑤ 支える・つながる——地域・自治体・国の役割と社会保障』(pp. 71-108) 明石書店.

論文	三宅雄大 (2019)「生活保護制度における高等学校等卒業後の就職に関する研究——「保護の実施要領」の分析を通じて」貧困研究会『貧困研究』22, 明石書店, pp.96-107.
資料・研究ノート等	三宅雄大 (2020)「文献紹介 埋橋孝文, 矢野裕俊, 田中聡子, 三宅洋一編著『子供の貧困／不利／困難を考えるⅢ：施策に向けた総合的アプローチ』」日本社会福祉学会『社会福祉学』60 (4), pp.113.

氏名・専門領域	安松 幹展 ●運動生理学, フットボールサイエンス, ゲーム分析
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 安松幹展 (2020)「12 サッカーに対するスポーツ科学的アプローチ」大串哲朗, 山本敦久, 島崎崇史 編『サッカー 13の視点』創文企画. 2) 安松幹展 (2020)「第13章 いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは」安部孝, 琉子友男 編『これからの健康とスポーツの科学 — 第5版』講談社. 3) 安松幹展 (2019)「第5章 球技におけるトレーニングの原則 2節 体力トレーニングのオーガナイズとポイント」日本コーチング学会編『球技のコーチング学』大修館書店.
論文	Nakamura D, Muraishi K, Hasegawa H, Yasumatsu M, Takahashi H (2020) "Effect of a cooling strategy combining forearm water immersion and a low dose of ice slurry ingestion on physiological response and subsequent exercise performance in the heat", <i>Journal of Thermal Biology</i> , 89, https://doi.org/10.1016/j.jtherbio.2020.102530 .
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 安松幹展 (2020)「序章, 第12章 スポーツパフォーマンス」安松幹展, 宮城修 監訳『スポーツコーチのためのトレーニング生理学』大修館書店, Jens Bangsbo (2011)『Exercise and training physiology』SISU Sports Books. 2) 安松幹展 (2020), 「サッカーの科学的トレーニング5 高校生年代サッカー選手のコンディショニング」(公財)全国高等学校体育連盟サッカー専門部編『2019高校サッカー年鑑』.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大室龍大, 磯勇亮, 三尾ひかり, 坂上賢一, 石崎聡之, 安松幹展 (2019)「フットサルの試合中に見られる疲労パターン」第70回日本フットボール学会, 埼玉, 12月. 2) 村石光二, 中村大輔, 高橋英幸, 安松幹展 (2019)「ハーフタイムでの前腕冷却とアイスラリー摂取の組み合わせによる身体冷却効果」第70回日本フットボール学会, 埼玉, 12月. 3) 大室龍大, 安松幹展 (2019)「異なる競技レベルにおける女子フットサル選手のゲームフィジカルパフォーマンスと体力特性」第70回日本体育学会, 9月, 神奈川, 9月. 4) Muraishi K, Nakamura D, Takahashi H, Yasumatsu M. (2019) "Combined Effects of Low-Dose Ice Slurry Ingestion and Forearm Cooling on Thermoregulation and Physical Capacity during Exercise in Hot Environments" ICEE, Amsterdam/Ned, July. 5) Nakamura, D. Yasumatsu, M. Tobita, A. Nakamura, M. Ishi, Y. Tanabe, Y., Iwayama, K., Shiose, K., Ishibashi, A, Takahashi, H. (2019) "Pre-match muscle glycogen levels of three matches in 1 week based on high carbohydrate intake" ECSS, Prague/Cze, July. 6) Nakamura M., Nakamura D., Yasumatsu M., Takahashi H. (2019) "Influence of intake of ice slurry on core temperature and blood pressure during acute recovery period after endurance exercise in hot environment" ECSS, Prague/Cze, July. 7) Ohmuro, T., Iso, Y., Mitsuo, H., Sakaue, K., Ishizaki, S., Yasumatsu, M. (2019) "Temporary Fatigue during futsal games" ECSS, Prague/Cze, July.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会評議員 2) 日本フットボール学会会長

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 3) 日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会「スポーツ活動中の熱中症予防に関する研究」研究班員 4) 国立スポーツ科学センタースポーツ・医科学事業研究分担者 5) アジアサッカー連盟フィットネスコーチインストラクター 6) (公財)日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 7) (公財)日本サッカー協会技術委員会技術委員会指導部会部員 8) (公財)埼玉県サッカー協会科学研究委員会委員 9) 関東大学女子サッカー連盟理事
-----------------	--

氏名・専門領域	山口 綾乃 ●異文化コミュニケーション, 社会学
論文	Kim, M.S., Oshio, A., Kim, E.J., Tasaki, K., & Anderson, K.B., & Yamaguchi A. (2019). A Cross-Cultural Test of Implicit Theories of Rerequesting. <i>Communication Research Reports</i> , 36 (1), pp.14-23.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Yamaguchi, A., Kim, M.S., Akutsu, S., & Oshio, A. (2019). Bicultural Identity Orientation of College Students in the US and Japan. International Communication Association, May 24-28, 2019, in Washington D.C., Health Communication Association (38% acceptance rate for international level). 2) Srirangarajan, T., Kim, M.S., Oshio, A., Akutsu, S., & Yamaguchi, A. (2019). Nomological Network of Dispositional Mindfulness: Evidence from MIDUS-II and MIDUS-III, the 31st Association for Psychological Science (APS Impact Factor 7.0) Annual Convention, May 23-26, 2019, in Washington, DC, USA.
学内・学外における社会的活動等	<p>[Research Awards and Contributions]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 独立行政法人日本学術振興会審査委員 2) National Communication Association (NCA) Paper Reviewer 論文審査委員 3) 国際共同研究：共著者，リーダー University of Hawaii at Manoa, Min-Sun Kim, Hitotsubashi University, Satoshi Akutsu, and Waseda University, Atsushi Oshio to use the national data sets (Midlife in the United States (MIDUS), Midlife in Japan (MIDJA)), which were produced by Carol D. Ryff of the University of Wisconsin-Madison, Shinobu Kitayama of the University of Michigan, Mayumi Karasawa of Tokyo Christian Woman's University, Hazel Markus of Stanford University, and Norito Kawakami of the University of Tokyo. Christopher Coe from the University of Wisconsin-Madison, US, and National Institute of Aging, US. 4) Received and Invited Professional Review Offer, Comments and Suggestions from Ichiro Kawachi at the Public Health, Harvard University, US. 5) Cited Yamaguchi A. (2013) Influences of social capital on health and well-being from qualitative approach, <i>Global J Health Science</i> to <i>BMC Public Health</i> (Impact factor 2.5-3.2 ranges; with Prof. Ichiro Kawachi's papers) 6) Appointed and Invited professional consultants to provide advice to the researchers at the National Cancer Center Japan as International Research Project as International Research Collaborator with the National Institutes of Health (NIH) in the US from May 2019. It was also broadcast at NHK. 7) Appointed professional consultants to provide advice to the students about English communication in areas such as TOEIC, TOEFL, IELTS, international internships, and study abroad programs (April 2019-March 2020) 8) Received grant-in-aid for a research project from the Young Scholar Scholarship Awards at Rikkyo University in Japan (April 2019-March 2020) as the principal investigator for "Happiness, Emotion, and Health across Culture"

<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<p>9) Provided professional aid for Japanese students seeking to study abroad in the UK and US : One female student was conditionally accepted by the Master of Arts in Migration Studies program, Department of Sociology, University of Essex, UK. One female student was conditionally accepted by the Master of Arts in Intercultural Communication program, Department of Communicology, University of Hawaii, Manoa, US.</p> <p>【Conference Members】</p> <p>1) International Communication Association (ICA) 2) National Communication Association (NCA) 3) 日本社会学会 4) Hawaii Sociological Association (HSA) 5) 日本保健医療社会学会 6) America Sociological Association (ASA) 7) Society for the Study of Social Problems (SSSP) 8) 日本コミュニケーション学会</p> <p>【Research Collaborations】</p> <p>1) Cross-Cultural Health and Well-Being: Research Project Partner and Research Collaborator (米国ハワイ大学, 米国スタンフォード大学, 一橋大学, 早稲田大学) 2) Midlife in the U.S. (MIDUS) and Midlife in Japan (MIDJA) Research Project Partner (米国ミシガン大学, 米国ウイスコンシン大学, 米国スタンフォード大学, 東京大学, 東京女子大学) 3) Global Health Innovation Policy Program (GHIPP) Partner (政策研究大学院大学) 4) Cross-Cultural Health and Well-Being and Environmental Studies (米国イーストウエストセンター) 5) Social Capital Research Project Partner (米国ハーバード大学など) 6) Self-Compassion, Mindfulness, and Well-Being Research Project Partner (Oxford University 英国オクスフォード大学など)</p>
------------------------	--

氏名・専門領域	結城 俊哉 ●ノーマライゼーション論, 障害者福祉論, 福祉文化論
著書	<p>1) 結城俊哉 (2019)「第12章 障害のある子をもつ家族と子ども家庭支援 — 発達を育む保育方法と家族理解」浅井春夫, 所 貞之編著『子ども家庭支援論: 家族の多様性とジェンダーの理解』建帛社.</p> <p>2) 結城俊哉 (2019)『ケアのフォークロア — 対人援助の基本原則と展開方法を考える』(3刷) 高菅出版.</p>
論文	結城俊哉 (2019)「『平成』という時代における『障害者福祉』の歩みと新元号時代への課題」『リハビリテーション』第612号, pp.15-19 社会福祉法人鉄道身障者福祉協会.
学会発表	<p>1) 結城俊哉 (2019)「誰もが排除されない社会とは? : ノーマライゼーションの本質」埼玉県障害者協議会, (埼玉, 6月).</p> <p>2) 結城俊哉 (2020) : 「シンポジウム・ファシリテーター: 福祉の現場文化のチェンジを創るチャレンジャーとは誰か~「私」から始まる「私たち」のチェンジとチェンジ」第3回ちようふ福祉実践フォーラム, 調布市社会福祉協議会 (東京, 2月).</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 日本福祉文化学会理事 (研究委員会) 2) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会「福祉人材育成センター運営委員会」委員長 3) NPO 法人日本障害者福祉協議会 (JD)『すべての人の社会』編集委員 4) 茨城県守谷市福祉有償運送等運営協議会委員長</p>

学内・学外における社会的活動等	<ul style="list-style-type: none"> 5) 社会福祉法人多摩棕櫚協会運営評議員 6) 社会福祉法人たまぷらねっと理事 7) 練馬区障害者自立支援施設等指定管理者選定小委員会委員 8) 法政大学現代福祉学部大学院：非常勤講師（ソーシャルワーク特論） 9) 学部紀要委員・実習委員・日本ソーシャルワーク教育学校連盟担当・広報委員・学生生活支援協議会・ジェンダーフォーラム運営委員会・体育会（レスリング部・部長） 10) 立教大学（新座キャンパス）過半数代表
-----------------	--

氏名・専門領域	湯澤 直美 ●児童福祉, ジェンダー学, 貧困研究
著書	山野良一、湯澤直美編『シリーズ子どもの貧困5 支える・つながる一地域・自治体・国の役割と社会保障』明石書店, 2019年5月.
資料・研究ノート等	<ul style="list-style-type: none"> 1) 「座談会 子どもの貧困対策の動向と大綱の改正をめぐって（小特集 子どもの貧困対策の動向と自治体）」(2020)『貧困研究』vol24, pp.52-67. 2) 婦人保護事業における通信機器等の取扱い及び婦人相談所におけるSNSを活用した安全な開設、運用方法等に関する調査研究ワーキングチーム (2020)『婦人保護事業における通信機器等の取扱い及び婦人相談所におけるSNSを活用した安全な開設、運用方法等に関する調査研究報告書』.
学会発表	日本社会福祉学会第67回秋季大会・大会校企画シンポジウム「自立は社会福祉の規範たり得るかー存在の多様性を支える論理とは」シンポジスト, 2019年9月21日, 大分大学 演題「フェミニズム／ジェンダーの観点から「自立」を問う」.
学内・学外における社会的活動等	<p>【社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 日本学術会議連携会員 2) 日本学術会議「社会学委員会・社会福祉分科会」監事 3) 日本学術会議「社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会」委員 4) 日本子ども家庭福祉学会・理事 5) 全国社会福祉協議会「母子生活支援施設協議会」中央推薦協議委員 6) 横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定推進会議・委員 7) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会子ども・若者総合支援事業運営委員会委員長 8) 社会福祉法人「ベテスタ奉仕女母の家」評議員 9) 一般社団法人「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」理事 10) 社会福祉法人「愛の家」評議員 11) 『貧困研究』（明石書店）編集委員会・委員 12) 「特別区人事・厚生事務組合社会福祉事業団」評議員 13) 文部科学省「学びを通じたステップアップ支援促進事業」審査委員 14) 厚生労働省委託事業「婦人保護事業における通信機器等の取扱い及び婦人相談所におけるSNSを活用した安全な開設、運用方法等に関する調査研究ワーキングチーム」委員長 15) 社会福祉法人慈愛会「2019年度社会福祉法人慈愛会中長期計画プロジェクト」アドバイザー <p>【研修等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 特定非営利活動法人全国女性会館協議会「女性の学ぶ・働く・生きる応援フェスタ2020」シンポジスト 2) 熊本県婦人相談員連絡協議会「令和元年度 熊本県婦人相談員連絡協議会第2回定期研修会」講師 3) 厚生労働省「令和元年度 全国婦人相談員・心理判定員研究協議会」基調講演 4) 一般財団法人東京都ひとり親家庭福祉協会「第2回相談支援員研修会」講師

氏名・専門領域	ライトナー・カトリン・ユミコ ●グローバルスポーツマネジメント
著書	ライトナー・カトリン・ユミコ (2020) 「日本のスポーツ文化の不思議」井上俊, 菊幸一編『よくわかるスポーツ文化論 (改訂版)』ミネルヴァ書房.
学会発表	ライトナー・カトリン・友海子 (2019) 「外国人からみた日本柔道の『ふしぎ』とその評価」第2回柔道インテリジェンスフォーラム, 東京, 8月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) (一社)日本体育学会国際交流委員会幹事 2) 2020横浜スポーツ学術会議学術委員会幹事 3) スポーツ庁委託事業 公益財団法人日本スポーツ協会「ASEAN (東南アジア諸国連合) 諸国におけるスポーツ推進貢献事業」ワーキンググループ委員 4) 公益財団法人日本スポーツ協会「スポーツの組織的統括性からみたスポーツ人口等実態調査事業 (事業)」委員